



國學院大學文学部

# 中国文学科 ガイドブック

— 中国の文学と文化を探求する —



もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

— 中国の文学と文化を探求する —



# 読むこと・考えること

中国文学科代表（令和6年度） 浅野 春二

詩や文章は人が思いを託して書き残したものです。それを読むことは、その思いを受けとり、自分の心で感じ、自分自身で考え、詩や文章に籠められた思いに迫ることだと思います。人間が書いたものですから、同じ人間である私たちには、それが必ずわかるはずですが、時間や空間を隔て、環境も生活も異なった人の書いたものをほんとうに理解することができるのでしょうか。ですから、作品を読むときには、その作品を生みだした人が生きた時代や環境をでき得る限り調べ、それに基づいて解釈していくことが必要となります。ただ自分勝手な思いを作品に押し当てて読んで、作品は語りかけてきてはくれません。

今の自分を乗り越えていくには、自分と異なる他者との出会いが必要です。読むときには共感も大切ですが、何かもやっとした引っ掛かりのようなものも見過ごさないようにしましょう。この作品はこういうものだと解説できるようになることよりも重要なのは、ことばと出会うことによって新たな自分を切り拓ききっかけを得ることです。

中国の歴史を多少なりとも知っていれば、人々が厳しい政治・社会の中を生き抜き、ことばを残してきたことはわかると思います。真摯にそうしたことばに向きあえば、みなさんがこれから生きていく糧がきつと得られるはずですが、どうぞ広く・深く中国文学および思想・言語・民俗の世界を学んでください。それを通して生きていく上での気構えをつくり、自分のことばを磨いて、自分の表現を鍛えあげていきましょう。

## 國學院における中国文学の歩み

<第1期>1882～1947 建学から旧制大学へ

1882：明治15年 皇典講究所設立。  
1890：明治23年「國學院」開校。  
1920：大正9年 大学昇格。  
1930：昭和5年「漢文學會」発足。以降、戦前戦後の混乱期を克服して活発な学術活動を展開。この間一貫して、古典としての「國漢」は重視され、また国史・国文に対する史伝・漢文は、本学の基幹としての役割を担った。

<第2期>1948～1995 戦後の混乱復興から学の充実へ

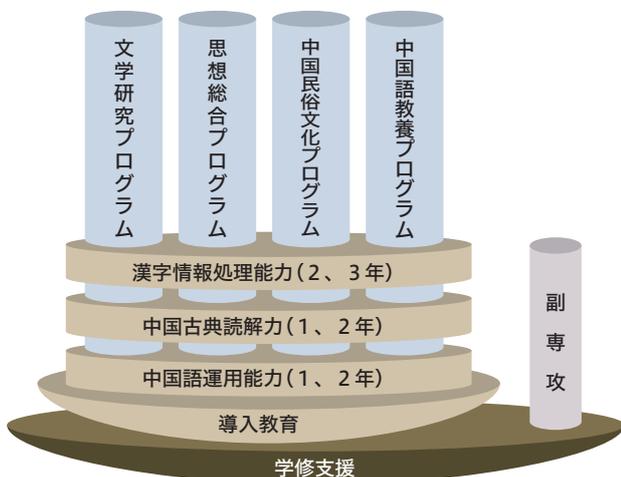
1948：昭和23年 新制学部に移行。  
1951：昭和26年 大学院文学研究科設置。  
1980：昭和55年『漢文學會々報』創立50周年記念号発行。  
1982：昭和57年 大学創立100周年を迎える。  
1992：平成4年「漢文學會」を「中國學會」に改称。この間、文学部文学科に「中国文学専攻」→「漢文学専攻」→「中国文学専攻」が展開し、数度のカリキュラムの改訂を経て、学科課程の拡大・深化を図る。

<第3期>1996～ 中国文学科開設から更なる発展へ

1996：平成8年 文学科を発展的に解消し、日本文学科・中国文学科・外国語文化学科設立。  
2000：平成12年 中国文学科第1期生卒業。  
2006：平成18年 学科内にプログラム選択制・セメスター留学制発足。翌年、南開大学に留学生派遣。  
2024：新カリキュラムへの移行。思想総合プログラムが発足。

## 創立以来 百四十年の伝統

### 中国文学科・カリキュラム概念図



# 中国文学科の学びと特色

## Q&A

### Q どんな授業がありますか？

[→詳しくはP6～7へ]

**A** 中国文学科には、70以上の授業科目があります。学科の学びの基幹の科目群(学科基幹科目)は、**中国古典の理解・中国語運用能力の向上・漢字情報処理技術の習得**を柱として構成されています。論語・詩経・楚辞・文選を学ぶ科目、現代中国語を初歩から学ぶ科目、PCを用いて中国学関連の文献調査法やデータベースの活用法を身につける科目があります。また、漢文を初歩から学び直す科目も設けられています。さらに、中学・高校国語科教員志望者を主な対象として、古典研究の専門性を活かした教育のできる教員の養成を目的として「**古典教育研究**」も設けられています。

本学科の学びの特色は、中国文学及び関連する諸分野で興味を持ち、関心が高まった問題について、各人が関連する科目を選択・履修して**自分独自の学びを組み立てていく点(プログラム選択制)**にあります。中国文学科には、中国の歴史や思想、文字学、さらに絵画や芸能について学ぶ科目、中国の儀礼や食文化・民俗文化などを学ぶ科目、中国近現代小説、翻訳や通訳の技法やビジネスに役立つ現代中国語を学ぶ科目などが開講されており、人や社会、また、その上に花開く文化について、多角的、総合的に学ぶことができます。

### Q 大学での授業をどう取りますか？

[→詳しくはP6～7へ]

**A** 中国文学科の授業は半期開講の科目です(関連科目は除く)。それぞれ科目ごとに履修単位は異なり、1～6単位です。中国文学科のカリキュラムは「**専門教育科目**」と「**共通教育科目**」に分かれています。卒業のためには124単位以上が必要です。履修方法には2通りあります。中国学を深く学びたい人は「**専門教育科目**」を88単位以上、「**共通教育科目**」を36単位以上取ることができます。幅広く学びたい人は、「**専門教育科目**」を64単位以上、「**共通教育科目**」を36単位以上、さらに「**全学オープン科目(共通教育科目+他学部他学科専門科目)**」を取ることできます。**自分の興味と目的に合わせて、授業の取り方を決められます。**

#### ●中国学を深く学びたい

卒業に必要な単位：124単位以上

専門教育科目  
88単位以上

共通教育科目  
36単位以上

#### ●中国学を幅広く学びたい

卒業に必要な単位：124単位以上

専門教育科目  
64単位以上

共通教育科目  
36単位以上

全学オープン科目  
24単位以上

(共通教育科目+他学部・他学科専門科目)



## Q 4年間、どんなことを学びますか？

[→詳しくはP6～7へ]

A 中国文学科では、「古典読解能力」「漢字情報処理能力」「中国語運用能力」の養成を土台にカリキュラムが構成されています。1年から4年まで、これらをもとにしたカリキュラムで段階的に学び、専門性を身につけます。中国文学科の「専門教育科目」は、「学科基幹科目」「プログラム専修科目」「関連科目」に大別されています。

1年次	現代中国語と古典読法の授業が中心です。他に「中国文学入門」などで中国文学の基礎と学問への姿勢を学びます。漢文を初歩から学び直す科目もあります。
2年次	選択した「プログラム展開科目」から授業を履修していきます。他に「中国文学史」「中国古典詩購読」「詩経演習」などの専門科目を履修し、中国文学への理解を深めていきます。
3年次	引き続き、「プログラム展開科目」から選択必修し、各人の学びを深めます。また、卒業論文のテーマを決める「卒業論文Ⅰ」及び「中国学応用演習Ⅰ」を履修し、卒業論文の準備を進めます。
4年次	3年次から引き続き「卒業論文Ⅱ」「中国学応用演習Ⅱ・Ⅲ」を履修し、中国文学科での学修の集大成となる卒業論文の完成を目指します。

## Q 4つのプログラムとコースの違いって何ですか？

[→詳しくはP6～7へ]

A プログラムは、各プログラムの科目群の中から履修します。プログラムは、「**文学研究プログラム**」「**思想総合プログラム**」「**中国民俗文化プログラム**」「**中国語教養プログラム**」です。2年次前期に1つを選択し、そのプログラムの科目を履修していきます。各プログラムで取得単位がそれぞれ違います。コースと違い、3年次後期までプログラム変更が可能です(申し出が必要)。

## Q 留学制度はどんなものがありますか？

[→詳しくはP8～9へ]

A 國學院大學では**3つの留学制度を実施しています**。第1は、春休み・夏休みに行われる1か月の短期留学、第2は、2年次後期に行われる Semester 留学(復旦大学は約4ヶ月、国立台湾師範大学は約6ヶ月)、第3は、半年もしくは1年の協定留学です。留学先は台北・台南・上海・天津にある5大学です。

## Q どんな資格が取れますか？

[→詳しくはP14へ]

A 中国文学科の学生は、**中学校教諭(国語)一種、高等学校教諭(国語)一種、高等学校教諭(書道)一種の教員免許が取得可能です**。「副免許教科」として、英語・社会・保健体育(以上、中学校)、英語・地理歴史・公民・保健体育(以上、高等学校)、また異なる学校種として、小学校教諭一種、特別支援学校教諭一種免許が取得可能です。他に、学芸員・図書館司書・学校図書館司書教諭・神職の資格が取得できます。(令和6年度現在)

## Q どんなどころに就職していますか？

[→詳しくはP15へ]

A 様々な職種の一般企業に就職しています。中国語学習・中国留学の経験を生かして就職をする卒業生が近年増えています。中国文学科では**就職フォーラムを開催し**、内定生による中国文学科生に特化した就職活動に関する情報を提供しています。また、古典読解能力を活かした国語教員になる卒業生も増えています。さらに、**大学院に進学して専門性を深めていく卒業生もいます**。



中国を深く研究し、知性と感性を磨く

# 4つのプログラム選択

## 文学研究プログラム

### 文学の深い探究

2年次以降に「中国文学と感性Ⅰ～Ⅲ」「中国文学と表現Ⅰ～Ⅲ」「中国文学と時代Ⅰ～Ⅲ」などを履修します。内容は、小説や散文などの古典文学から現代文学、伝統芸能と多彩な内容です。教職や大学院進学にも対応できます。



## 思想総合プログラム

### 先人の足跡を辿る

1年次後期に「中国思想入門」を、2年次以降に「中国思想と学術Ⅰ～Ⅲ」「中国思想と時代Ⅰ～Ⅲ」「中国の思想と伝統Ⅰ～Ⅲ」などを履修します。中国の思想だけではなく、歴史、芸術など幅広く学びます。



## 授業紹介 ※一例です

### 中国文学入門

中国文学に関する事項を概観する必修科目です。中国の文学はどのように発生したのか。文学は歴史を通じてどのように展開していったのか。これらの問いから出発し、テーマにはどのようなものがあるのか、文学を担ったのはどんな人たちだったのか等について幅広く学び、4年間の学修の基礎を養います。

### 中国古典読法基礎 中国古典読法Ⅰ・Ⅱ

中国古典の読解力を養成します。漢文基本構造・句法や古語文法、解釈法などを学びます。この授業で読解力を身につけ、漢文が強みになった国語の教員になった学生もいます。

### 中国古典詩講読

日本でも有名な李白・杜甫などの唐代の詩人や宋代の詩人の詩歌作品を学んでいきます。唐代・宋代の詩歌作品は近体詩と呼ばれ、中国文学の精華です。有名な作品を精選し、読解・鑑賞する方法を学んでいきます。

### 中国語基礎演習

中国語運用能力の養成のための基礎となる授業です。週2回、半期で中国語の発音、基本的文法を学びます。また暗唱の時間を設け、よく使うフレーズを覚えながら、同時に発音練習に役立ちます。その際、担当教員が1人1人の発音を丁寧に直していきます。

### 漢字情報処理Ⅰ・Ⅱ

パソコンを用いた電子情報編集の基礎を学び、中国語文字入力・縦書き文書作成方法、レポート作成を学びます。さらに、中国文学関連(日本語・中国語)の検索方法など、漢字文化圏について学ぶ際に有用なコンピュータ技術を身につけます。

### 卒業論文Ⅰ

4年間の学修の集大成である「卒業論文」を作成するための授業です。3年次前期に「卒業論文Ⅰ」を履修し、テーマを決めます。3年次後期で「卒業論文Ⅱ」を履修し、「中国学応用演習Ⅰ～Ⅲ」とともに1年半をかけて卒業論文の準備・執筆を行います。

## 中国民俗文化プログラム

### 中国の人と生活を知る

1年次後期に「中国民俗文化入門」を、2年次以降に「中国古典と民俗文化Ⅰ～Ⅲ」「中国民俗文化と心Ⅰ～Ⅲ」「中国民俗文化と形Ⅰ～Ⅲ」などを履修します。中国の民間に伝わる文化を深く掘り下げ、東アジア全体に広がる基層文化の理解を目指します。



## 中国語教養プログラム

### 中国語を存分に

1年次後期に、セメスター留学準備のための「教養中国語Ⅰ」を、2年次以降に「教養中国語Ⅱ・Ⅲ」「応用中国語Ⅰ～Ⅳ」「実践中国語Ⅰ～Ⅴ」などを履修します。現代中国語を学習するための授業内容が充実しています。



## 卒業論文発表会

中国文学科指導教員から選ばれた4年生が学修の集大成である卒業論文の成果を発表します。最も優秀な卒業論文には、國學院大學中國學會奨励賞(賞状および副賞)が授与されます。

### 【研究発表(令和5年度)】

- 『詩経』鄭風「女曰鷄鳴」篇小考 — 贈報行為に注目して —
- 李斯の上書の論法と表現について ～ 『史記』と『韓非子』・『戦国策』との比較を軸に～
- 『抱朴子』内篇における「齋」について
- 『論語集注』における「曾子」



語学力をさらに伸ばす

# 4つの留学制度



本学の『国際交流ガイドブック』は  
こちらのQRコードから閲覧できます

## 1 短期留学

▶国際交流ガイドブック  
P.12参照

外国語能力向上を目指して、夏休み(台湾・台南市、南台科技大学)・春休み(中国・上海市、復旦大学)で集中的に語学を勉強する4週間の留学入門プログラムです。



## 2 セメスター留学

▶国際交流ガイドブック  
P.17参照

高い語学力の修得を目指した1学期間(4~6カ月間)の留学プログラムです。留学先は、復旦大学(中国・上海市)と国立台湾師範大学(台湾・台北市)から選べます。



## 3 認定留学

▶国際交流ガイドブック  
P.20参照

國學院大學に在籍しながら海外の大学に1学期間(半年)もしくは2学期間(1年間)留学し、海外で修得した単位を、本学の単位として認定する制度です。



## 4 協定留学

▶国際交流ガイドブック  
P.22参照

海外協定校で交換留学生として学ぶ留学で、留学先の学費は免除されます。協定留学には、現地の学生と共に学部授業に参加する「学部留学」と、留学先の言語を学ぶ「語学留学」があります。

留学先の例：南開大学(中国・天津市)、復旦大学中文系(中国・上海市)、世新大学(台湾・台北市)、南台科技大学(台湾・台南市)

夏期短期留学

夏休み(約1カ月)

セメスター留学

1学期間(約4~6カ月)

1年

前期



後期

2年

前期



後期

## 留学先の紹介



**南開大学**  
(中国・天津市)

1919年に創立された中国における重点総合大学の1つです。故・周恩来首相の母校としても有名です。キャンパスは天津市南開区に位置し、近くに水上公園や動物園などがあり、北京へは新幹線で約30分というロケーションですので、北京市街も行動範囲になります。



**復旦大学**  
(中国・上海市)

1905年創立の総合大学で、中国では北京大学と双璧をなす名門大学です。科学技術・経済・管理・生命科学など各種の研究機関や研究所があり、広大な校地には緑も多く、キャンパス自体が一つの街を形成しています。セメスター留学では、復旦大学の国際文化交流学院で1学期間、世界中から集まる留学生と共に中国語を学びます。



**世新大学**  
(台湾・台北市)

台北市に位置する、1956創立の私立総合大学。世新新聞職業学校を前身とし、台湾ではジャーナリズムの分野で有名です。マスコミ、映画業界等で活躍する卒業生を多数輩出。新聞コミュニケーション学部、経営学部、人文社会学部、法学部があります。



**国立台湾師範大学**  
(台湾・台北市)

台湾、台北市の中心部に位置する名門総合大学。創立の起源は、日本統治下の1922年に設立された台湾総督府台北高等学校が基となります。セメスター留学では、中国語教育を専門とする国立台湾師範大学国語教学中心（中国語センター）で1学期間、世界中から集まる留学生と共に中国語を学びます。



**南台科技大学**  
(台湾・台南市)

1969年に創立された台湾の総合大学で、在来線「台南」駅から約4kmの、台南市の北東部に位置します。都市部の利便性と農村ののどかな雰囲気が融合した環境の中にあります。

### 協定留学

1学期間又は2学期間

3年

前期



後期

4年

前期



後期

# INTERVIEW

## 山本 悠也

中国文学科2021年3月卒業／株式会社不二家勤務

私は明確な目標をもって留学に臨んだわけではなく、シンプルに留学は絶対楽しいだろうという理由で、復旦大学(上海市)のセメスター留学に参加しました。そして、留学を経験した後、将来は中国語を身につけて世界を相手に仕事をしたいという強い意志を持ち、本格的に勉強に取り組み、そこが現在に至る出発点となりました。留学は行くことが目的ではなく、行ってからが大切であることを身をもって知りました。僅か4カ月間でしたが、クラスには日本人が少なく、様々な国から留学に来ていたクラスメイトと中国語を通して交流ができましたし、それによって語学も上達し、各国の文化、人間性、価値観に触れ、理解することができたこともかけがえのない財産となりました。今は中国のドラマやYouTubeといった媒体を使って中国語を聞き、話すという機会に恵まれていますので、留学前はこのような方法で勉強するのもよいかと思います。現在は食品メーカーに就職し、海外事業部の中国事業担当として杭州の子会社とのメールのやり取りや翻訳作業、商標管理を行うなど現地工場の経営支援や貿易実務をサポートしています。いずれは中国本土で独り立ちして働けるよう語学力をさらに磨いていきたいです。こうして中国語を使う職場環境に恵まれたのも、全ては留学のおかげです。



## 鈴木 裕奈

文学部中国文学科4年(取材当時)／明治図書出版株式会社勤務予定

2年次後期に復旦大学(上海市)のセメスター留学に参加しました。現地のクラスメイトのほとんどは様々な国から来ていた留学生。私と同じく大学生もいれば、ビジネスで留学に来ている人もいました。授業内容は文法を中心とした授業、話すことを主とした口語の授業、CDを聞きながら問題を解くリスニングの授業、文章を読み理解する力を鍛える授業があり、授業はすべて中国語で行われます。

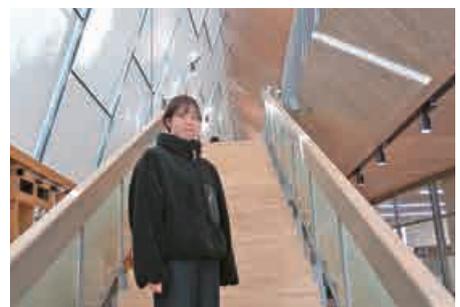
復旦大学周辺は飲食店やデパート、スーパーなどが充実していました。放課後はカフェや友達の家に行ったり、休日は地下鉄やタクシーを利用して買い物や観光に出かけました。

留学当初は、先生や友達の話す内容が聞き取れず、とても不安でした。また、クラスメイトと話するときも、簡単な会話しかできずに落ち込むことがたくさんありました。しかし、積極的に友達と遊びに出かけたり、勉強をしたりしていくうちに、共通の話題が増え、より深い内容の話も少しずつできるようになりました。

また、この留学では、語学力の向上だけではなく、様々な経験をすることができました。実際の中国の生活様式や食・文化、進んだ技術などを肌で感じながら、国際色豊かな仲間たちと切磋琢磨して乗り越えた経験はかけがえのないものとなりました。

就職活動は、教育関係と出版関係の会社を中心にエントリーしました。採用面接では留学経験について質問されることが多かったのですが、話題に困ることはありませんでした。最終的には、希望していた教育系の出版社から内定をもらいました。

留学前は、留学に参加するかどうかとても悩みましたが、留学を決断して本当によかったです。



## 中国語圏 Semester 留学

# Q&A

Q1

### 留学に行くための奨学金はありますか？

國學院大學の留学制度は給付型奨学金が充実。すべての留学制度に助成(奨学金)があります。特に Semester 留学では、参加者全員に年間授業料の半額相当(35~40万円)の奨学金が支給されます。さらに、Semester 留学終了後の語学検定(HSK)において優秀な成績を取めた方には、学習奨励金として10万円の奨学金が支給されます。

▶国際交流ガイドブック  
P.4 参照

Q2

### 単位認定はありますか？

Semester 留学先での成績をもとに、國學院大學の単位として読み替え(単位認定)が可能です。中国語圏 Semester 留学の場合、16単位を上限に単位認定を行っています。単位認定できる科目のほとんど(約12単位)は、中国文学科の専門科目として認定することができます。

▶国際交流ガイドブック  
P.17参照

Q3

### 中国語教養プログラム以外でも Semester 留学に参加できますか？

中国語教養プログラム以外のプログラム(文学研究プログラム、中国民俗文化プログラム、思想総合プログラム)を選択しても、Semester 留学に参加することができます。

Q4

### Semester 留学と教職課程は両立できますか？

両立できます。1年次からきちんと履修した単位を落とさず、成績をとることが大切です。

Q5

### Semester 留学に興味がありますが、少し不安です

まずは入学後の新学期(4月)に行う国際交流(留学)ガイダンスに参加してください。本学には Semester 留学以外にも、短期留学、認定留学、協定留学などがあります。自分にとってどの留学に参加するのがベストな選択なのか、不安だったりわからないことがあれば、ぜひ国際交流課の留学個別相談を利用してください。

▶国際交流ガイドブック  
裏面参照

## 中国文学科

# 学生座談会

今回は新進気鋭の1年生(収録当時)に、中国文学科に入学した理由や魅力、学生生活のアレコレについて語ってもらいました。

司会進行：鈴木 崇義

参加者：伊東 亮・須貝 奈帆・土屋 萌果・百目鬼 華恋・永尾 千尋

(令和5年12月収録)

### Q1

**司会** まずは、中国文学科を志望した理由を教えてください。

**伊東** 教職免許取得を考えたときに、現代文、古文に関しては國學院大學であれば学ぶ機会も多いだろうけれども、漢文を本格的に学ぼうとしたら中国文学科がよいだろうと考えて志望しました。

**永尾** もともと文章を読むことが好きなのですが、高校の授業で漢文を読み、そのリズム感とかがとても素敵だなと思ったこと、また、中国文学学科は珍しい学科だと思います。そういう特殊性にも惹かれて志望しました。

**百目鬼** 図書館司書になりたいと思ったのがきっかけです。また、古典の先生に『三国志』を教えてください、そこから中国文学に興味を持ったことも志望理由です。

**土屋** 私は中国の不思議な昔話、たとえば志怪小説や伝奇小説に関心があり、道教の儀礼にも興味を持っていたので、そういう道教を専門にしている先生に学びたいと思って志望しました。

**須貝** 私が一番やりたいことは日本漢詩についてなのですが、中国文学からの視点はまだまだ少ないと思うのです。そういったことから、日本における漢籍の受容ということも含めて中国文学から日本漢詩を読むとどういう世界が見えるのか、という風に思って中国文学科を志望しました。

### Q2

**司会** 入学してからそろそろ1年経ちますが、実際に試みてどうでしたか。良かったことを中心に教えてください。

**伊東** 他の学科だと人数が多いので先生方と触れ合える機会ってというのはなかなかなかったらと思うと思います。中国文学科は少人数なので、学生と先生との関係が深いと感じます。この点はとても良かったです。

**永尾** 想像していた以上に、中国文学について学ぶことが多かったというか、視界が広がった気がします。中国文学ってこんなに深かったのかという印象を受けました。

**百目鬼** 詩を先生と一緒に読んで、話の流れなどを踏まえて自分はどう感じるか、というようなことを考える授業がありました。こういった授業が面白く受講できるのが良かったなと思いました。

**土屋** いろんなことに興味を持っている学生がいるので、同じ学科にいて同じことを学んでいるのに、自分とは全く違う様々な視点があることに気づかされました。そういう仲間との交流から、自分の興味もさらに広がるどころが良かったです。

### Q3

**司会** 印象に残った授業を教えてください。

**伊東** 「中国古典の世界」の授業を受けて、自分が興味ある書物以外の書物にも触れる機会になったのが、良かったです。

**永尾** 「唐宋詩文演習」が印象的でした。平仄などの詩のルールや、詩の言葉ひとつひとつに様々な解釈が有ることを知ることができました。一つの詩から得られるものの多さを実感できたのも良かったです。

**百目鬼** 私は中国語の授業が印象深かったです。高校までは外国語というと英語だけだったので、漢字の他にもピンイン(ローマ字を用いた中国語の発音表記方法)などに初めて触れ、習ってから読めるようになると面白いなあと。

あとは、「中国文学概説」や「中国民俗文化概説」で、詩を読むことで新しい考えが自分の中に生まれてきて、そういう気づきも面白いなあと思いました。

**土屋** 私が印象に残った授業は、「中国民俗文化概説」です。実際の台湾でのフィールドワークに基づいたお話しをしてくださり、しかも、とても楽しそうに授業するので、聞いていてこっちも楽しいです。私が興味を持っているのが不思議な出来事の話なので、本で読んだ不思議な世界がフィールドワークにもとづく話と結びついて、現実味を帯びてくるのが面白いなと思いました。

**須貝** 一番印象に残った授業は「中国語基礎演習」です。まず、とてもたくさん喋らせてくれます。例文を暗唱して先生の前で披露するのも面白いですし、例文を覚えるのも達成感があります。もっと発音もうまくしてやろうという気持ちにもなりました。

### Q4

**司会** 大学内のお勧めの場所、よく利用する施設を教えてください。

**伊東** 図書館や6号館(総合学修館)はスペースがあるので、自習に利用します。

**永尾** 私は若木会館(部室がある課外活動の主な活動場所)をよく利用します。私も部活に所属していますが、ここにいると他の学部学科の人たちと関われますし、色々な繋がりが生まれて面白いです。

**百目鬼** 私は各建物にある自習スペースを利用して勉強したり休憩したりしています。長く時間がとれる時は、より静かで集中できる図書館で自習することも多いです。

**土屋** 図書館です。入ってすぐ中国文学科関係の本が並んでいて、目的の本を見つけやすいです。他には博物館

もあり企画展や展示内容もよく変わるので、頻繁に行きます。

**須貝** やはり図書館をよく利用します。私は自習じゃなくてそこにある本を読みに行きます。今は哲学系の棚を全部読んでやろうと思っています。せっかくいろんな本が置いてある図書館なので、いろんな分野の本を読むのが良いかなと思っています。

#### Q5

**司会** 今後、4つのプログラムのうちどれを選択する予定なのかを教えてください。

**伊東** 文学研究と人文総合のどちらかにしようかと悩んでいます。将来は教員を目指しているので、文学の視点から詩文で感性を深めるか、人文総合の視点から『論語』を中心に思想の勉強を深めていくかということを考えています。

**永尾** 私は文学研究プログラムに気持ちが傾いています。現在文芸部に所属して小説を書いています。昔の文学から得られるものって大きいと思っているので、それを今度は自分の文学にも活かしていきたいです。

**百目鬼** 私は民俗文化プログラムに興味を持っています。神と人との関係と文学との関係を授業で学ぶうちに興味を持って、それを深く学んでいきたいなと思うようになりました。

**土屋** 私も文学研究、人文総合、民俗文化で悩んでいます。教職課程を取っているのですが、文学研究や人文総合がいかなんかと思うんですけども、やっぱり自分の興味は民俗文化にあるので悩みます。あと、神職資格も取っているので、民俗文化プログラムを選択して日本の宗教と中国の宗教との関係についても深めていきたいとも思っています。

**須貝** 文学研究プログラムを選択する予定です。やはり、日本漢詩や日本漢詩漢文との繋がりのことを考えたいので。また、韻文に限らず小説も好きなので、伝奇小説なども学べたらいいかなと思っています。

#### Q6

**司会** 現在考えている将来の進路について教えてください。

**伊東** 大学院に行ってから教員になるか、あるいは進学しないで教員になるかです。いずれにせよ教員志望です。

**百目鬼** 異文化の魅力を伝えられる図書館司書になりたいなと考えています。ただ、図書館司書に絞ってはいなくて、今後大学でこれからのいろんな勉強をして、興味を持てるものを見つけて、それを深めていければなと考えています。

**土屋** 神職と教員とで悩んでいます。ただ、もう少し深いところまで学びたい気持ちもあるので、やはり、今のところは大学院進学が一番でしょうか。

**須貝** 私は一般の就職を考えていますが、何がしか中国と関係が持てる職場がいいなと思っています。中国古典文学を学んだ経験が、相手とコミュニケーションを取る上で教養として生きてくるだろうと。相手の文化をよく知っていることが、仕事に役立つことも大いにあるだろ

うなと考えています。かつ、私は日本漢詩や日本文学にもアプローチをかけているので、自国のことも教養として取り入れていることで、相手との信頼関係を築けるんじゃないかなって思っているの、そういう仕事に就きたいなと漠然とですが思っています。

#### Q7

**司会** 最後に、中国文学科への進学を考えている人たちへのメッセージをお願いします。

**伊東** 学んでいてつまずいても、すぐ質問に答えてくれる先生がいるのが良いです。また、予習復習することで、自分が勉強しているんだなっていう、自分の進歩を実感しやすい学科だと思います。

**永尾** どんなものを学ぶにせよ、大学にわざわざ来て学ぶということなので、学問というものを楽しむことを感じてもらいたいですね。『論語』(「雍也篇」)にもこうあります。「之を知る者は之を好む者に如かず。之を好む者は之を楽しむ者に如かず」。楽しみが降ってくるのを待つだけでなく、自分から楽しみに行くことが大事な。

**百目鬼** 正直に言って入学前は、中国文学科は他の学科と違って人数が少なくて友達できるかなとか、そういう日常生活の不安がありました。でも、実際入ってみたら友達もできたし、何より授業が少人数ということから、先生との距離が近いというのも、中国文学に入っていなって思いました。これから入学する皆さんも、少人数学科というのはむしろ利点だと思ってください。

**土屋** 大学は高校と違って自由な時間も増えるし、自分で挑戦する時間ができるので、自分のやりたいことを自分で見つけていく意欲が大事です。やりたいこともそうじゃないことも含めて、学んだことは全部つながっていくから、それをどんどん日常生活の中に詰めていくといいんじゃないかな。あと、資格課程も充実していて学科の勉強と両立もできますから、積極的に資格を取ることもオススメです。

**須貝** 私は資格課程はとっていないのですが、その分研究会に入ってより積極的に漢文に触れる機会を得て、とても充実感を覚えています。いろいろ選択肢はあると思いますが、自分がやりたいことがはっきりしていると、そこに突き進んでいけるんじゃないかなと(笑)。大学ならではの良さというか。そういうものを活用して欲しいかなと思います。



# 中国文学科で取得できる 資格・免許

## 教職課程

中国文学科の学生は、卒業要件のほかに所定の科目履修や実習等を経ることで、**教員免許(学校種・教科は下表のとおり)**を取得可能です。

なお、「副免許」や「異なる学校種」は、基礎免許教科を履修した上で所定の条件を満たすことにより取得可能です。

### ●中国文学科の学生が取得可能な教員免許

基礎免許教科	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中学校教諭 (国語) 一種</li> <li>● 高等学校教諭 (国語) 一種</li> <li>● 高等学校教諭 (書道) 一種</li> </ul>	
副免許教科	中学	英語・社会・保健体育
	高校	英語・地理歴史・公民・保健体育
異なる学校種	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 小学校教諭一種</li> <li>● 特別支援学校教諭一種</li> </ul>	

(令和6年度現在)

## 資格課程

本学で取得可能な資格には以下のものがあります。

- 博物館学課程
- 図書館司書課程
- 学校図書館司書教諭課程
- 神職課程



教職課程や資格課程を履修する場合、2年次にセメスター留学に参加しても、4年間で卒業要件を満たして卒業時に課程を修了することが可能です。

※図書館司書課程については、選抜試験(例年11月頃実施)を行います。

(学校図書館司書教諭課程は面接選考)

※学校図書館司書教諭課程は、教職課程も併せて受講する必要があります。

※神職(正階)資格取得後、明階の授与を受けるには、卒業後実務試験が必要です。

## 教職を目指す、みなさんへ

### 寺尾 創佑 (令和5年度卒)



皆さんは中学生や高校生の時、どのような授業が楽しかったですか。或いは、大学に入ってどのような授業を受けたいですか。その授業の条件の1つに、「教師がその授業内容を好きであること」があると思います。義務だからと仕方なく教えている授業は身が入らず淡白なものになります。もちろん教師としてそうした授業も担当しなければなりません、どうしても差は生まれてしまいます。ですから中国文学科を受験される皆さんには、ぜひ四年間で自分の「好き」を見つけ、追究して、卒業論文という形で発表してください。

卒業論文を書き終えるころ、皆さんの中国文学の引き出しは、「好き」を幹として様々な枝葉を伸ばしていると思います。一つのことを研究しようとするれば、横断的な知識が求められる場面が出てきます。文学・思想・歴史を分断することは難しいです。とはいえ網羅的に学ぶのもまた難しい。ですから皆さんは「好き」を幹として、そこから学びを広げてほしいのです。

文学から生き様を学んだり、それを自分にも反映させる

ことは文学を学ぶ大きな魅力です。しかしそのような大きなことを目標としても、それを達成するには長い時間、時には一生かかりますから、大学の4年間で何をすればよいかわからなくなってしまいます。したがってまず自分の学びたいことを定め、それを卒業論文などを通じて深めてください。専門性が得られるだけでなく、4年かけて卒業論文を書き上げ、学問を修めたことでついた自信は教師にならない方でも自分を支えてくれるでしょう。

最後に、もし皆さんが中国文学科を卒業し教壇に立つことになったら、ぜひ各々の「好き」を伝えてください。今風に言えば推しの布教でしょうか。生徒にその熱意が伝わり、授業や中国文学に興味を持ってくれるかもしれません。もしその中からあなたの様に中国古典を学びたいと思う生徒が出てきたらうれしい限りです。受験勉強の枠組みを超えて「好き」を学ぶ場が大学であり、勉強の本質だと思えます。是非皆さんは4年間で「好き」を追究し、その熱を生徒に伝播させてください。

# 卒業後の進路(近3年)

## 就職

●製造	不二家、六甲バター、北海道乳業、フジパングループ、アサヒビール、太平洋セメント、ツムラ、沖電気工業、ナカバヤシ
●商社・小売	三井食品、良品計画、カインズ、オーケー、イオンリテール
●建設・不動産	新日本空調
●出版・マスコミ	明治図書出版
●運輸・通信・旅行	三菱電機ロジスティクス、郵船ロジスティクス、三菱ケミカル物流、ソフトバンク
●金融	あすか信用組合、いちよし証券
●サービス	JR東日本ステーションサービス、住友三井オートサービス、オリックス・レンタック
●非営利・組合	セレサ川崎農業協同組合、横浜農業協同組合
●公務員	宮崎労働基準監督署、埼玉県庁、中野区役所、群馬県庁、警視庁、茨城県警察本部、千葉県警察本部
●教員	私立高等学校 浦和実業学園高等学校 公立中学校 長野県、神奈川県、千葉県、北海道 国立大学法人 東京工業大学

## 進学

- 本学大学院
- 私立専門学校

### 体験談 安達 竜乃介 (令和3年度卒)

#### 中国文学科から学んだこと

「日々の積み重ねの大切さ」です。中国文学科では、主に漢文読解力と中国語の運用能力を習得できるよう学んでいきます。漢文は中学校・高等学校と触れてきた人も多いと思います。また、中国語に関しても近年学習者が増え、身近に感じられるようになってきました。中国文学科の授業では難解な文献を多く扱うため、予習と復習が大切になってきます。授業の前後は図書館へ行き、辞書や事典で1つ1つ語句の意味を調べる必要があります。もちろん大学での学びは調べただけで終わりません。日々知識を蓄え、自ら何度も考えた先に「答え」が見つかります。地道な努力が実を結び、精神的にも鍛えられました。



#### 就職先

沖電気工業株式会社という電気メーカーに決まりました。幼い頃から祖父母の農業の手伝いを行ってきた経験から、ものづくりで多くの人や企業といった社会全体を支えたいという想いがありました。沖電気工業は長年培ってきた高い技術力から、防災・交通・製造など幅広い分野で社会課題を解決している点に、私の想いが合致し志望しました。また地道な作業が大

切となる「ものづくり」と、中国文学科での日々の積み重ねの「学び」が似ていると個人的には思っています。

#### 学生生活で行って良かったこと

留学です。私は大学2年の春に上海へ短期留学をしました。急成長している中国の文化に触れたり、現地の大学生と交流したりすることで、語学力の向上だけでなく、中国への価値観も広げることができました。このようなご時世で、中々海外に行くことはできませんが、機会があったらぜひ行ってみるのを勧めます。

#### 受験生へのメッセージ

皆さんが思い描く大学生活は、程々に勉強し、サークルやアルバイトをして、4年間を過ごす、このようなイメージを持っていると思います。中国文学科では、今まで以上に勉強することになります。毎日大変ですが、中国文学科では、自分の興味や関心のあることを選ぶことができるカリキュラムになっています。私は中国の民俗文化について学び、卒業論文では「古代中国の不老不死」について研究しました。この研究を通じて、「死とは何か」「生きることへの執着」といった中国文学という枠を超えて様々なことを発見することができました。真面目な雰囲気、今まで以上に勉強したいという学生におすすめの学科です。最新の文化が流行する街渋谷で、長い歴史をもち、永遠に変わらないものである中国古典文学を学んでみませんか。

# 各教員紹介

あおき ようじ  
青木 洋司 准教授 AOKI Youji

専門領域 中国哲学史

- 主な業績 『宋代における『尚書』解釈の基礎的研究』(単著 明德出版社 2014. 12)  
『論語—朱熹の本文訳と別解』(共著 明德出版社 2017. 11)  
『江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究』(共著 明德出版社 (2021. 12))

あさの はるじ  
浅野 春二 教授 ASANO Haruji

専門領域 道教儀礼

- 主な業績 『台湾における道教儀礼の研究』(単著 笠間書院 2005)  
『八門召魂壇において用いる蜀人について—南宋期道教の神虎召魂法から—』(単著 『國學院中國學會報』第62輯 2016. 12)  
『台南道教の進歩符について』(単著 『儀礼文化学会紀要』6 2018. 3)

いしもと みちあき  
石本 道明 教授 ISHIMOTO Michiaki

専門領域 中国古典文学

- 主な業績 『孔子全書』(共著 全22巻 既刊『論語』10巻『史記』2巻『孔子家語』1巻 明德出版社 2014以下続刊)  
『論語—朱熹の本文訳と別解』(共著 明德出版社 2017. 11)  
『江戸期『論語』訓蒙書の基礎的研究』(共著 明德出版社 2021. 12)

さかわ まゆこ  
佐川 繭子 准教授 SAGAWA Mayuko

専門領域 中国哲学・思想

- 主な業績 『劉歆「世経」の示す歴史認識について』(単著 『國學院雑誌』117-11 2016. 11)  
『漢文教授二関スル調査報告』の基礎的研究』(単著 『日本漢文学研究』14 2019. 3)  
『劉歆「移書讓太常博士」における学術—『史記』儒林列伝との対比を手がかりとして—』(単著 『國學院大學紀要』59 2021. 2)

さわざき ひさかず  
澤崎 久和 教授 SAWAZAKI Hisakazu

専門領域 中国古典文学

- 主な業績 『唐代伝奇小説「裴航」と宋詞—楊沢民「倒犯(藍橋)」を中心に—』(単著 『新しい漢字漢文教育』第70号 2020. 6)  
『唐代小説「辛察」と「煎餅招鬼」』(単著 『石川忠久先生星寿記念論文集 菊を採る東籬の下』汲古書院 2021. 10)  
『唐代小説の中の詩歌』(単著 『國學院中國學會報』第67輯 2021. 12)

すずき たかよし  
鈴木 崇義 准教授 SUZUKI Takayoshi

専門領域 中国古典文学

- 主な業績 『張惠言の『七十家賦鈔』について』(単著 『國學院雑誌』第117巻-第11号 2016. 11)  
『曹植の所謂「辞賦小道」をめぐって』(単著 『國學院中國學會報』第65輯 2019. 12)  
『司馬相如「長門賦」小考』(単著 『國學院中國學會報』第67輯 2021. 12)

はせがわ きよたか  
長谷川 清貴 准教授 HASEGAWA Kiyotaka

専門領域 中国思想

- 主な業績 『論語「思無邪」章小考—その成立時期と動機について』(単著 『國學院雑誌』114-3 2013. 3)  
『鄭玄の「為政」観—「論語」注と「戒書」とを中心に—』(単著 『國學院中國學會報』第60輯 2014. 12)  
『漢書』古今人表の「表」としての効果と制作意図—『論語』及び律曆志・藝文志との関係を中心に—』(単著 『國學院雑誌』122-7 2021. 7)

まきの のりこ  
牧野 格子 准教授 MAKINO Noriko

専門領域 中国近現代文学

- 主な業績 『謝冰心とエレン・ラモット“ベキン・ダスト”—異文化接触における不幸な邂逅—』(単著 『國學院雑誌』120-8 2019. 8)  
1955年「旅欧日記」から見る謝冰心の社会的地位』(単著 『國學院中國學會報』第66輯 2020. 12)  
『謝冰心とアメリカ』(単著 晃洋書房 2021. 12)

みやうち かつひろ  
宮内 克浩 教授 MIYAUCHI Katsuhiko

専門領域 中国古典文学

- 主な業績 『後漢・朱穆「崇厚論」小論』(単著 『國學院中國學會報』第61輯 2015. 12)  
『後漢・臧洪の絶交書について』(単著 『國學院雑誌』117-11 2016. 11)  
『後漢・馮衍<自論>初探』(単著 『國學院雑誌』118-11 2017. 11)

(表紙)「武仙像」(國學院大學図書館蔵)より諸葛亮・太公望